

マルセイニュース 3月号

発行日 2019/3/21
株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL.0146-22-5123

浦河沖の鮮魚を求めて 春一番の特産品市は大賑わい

3月10日(日) 日高中央漁協浦河市場



日高中央漁協浦河市場が大賑わい！それもそのはず、活毛ガニ1匹1,500円をはじめ前浜の新鮮な魚介類が格安販売されたのですから。無料のカニ汁も振舞われるとあって、午前10時の販売開始前から行列ができていました。初企画だった競り市も、来場者全員に当たったのでは？と思われた抽選会も大盛り上がり♪市場の人と直接対話をしながら楽しんで買い物をしている様子、良かったなあ～。 マックス

1、母が大奮発してわが家も毛ガニを1匹！脚1本はいくら？なんて話しながら、分け合って食べました。久しぶりの毛ガニはおいしかった～^^

今月は、前に町内の家の片づけを任せて頂いたお客様からの相談を受けて、えりも町のご実家(1軒家)の片付けをお手伝いさせて頂きました。



「暮らしの中の小さな困りごと」ご相談ください “物置の解体処分”をお任せいただきました！

春からは当社の「暮らしのサポート」の出番です！まるで雪融けを待っていたかのように、早速、暮らしの中の小さな困りごとのご相談をいただいています。困っている不要物の収集運搬処分はありませんか？どうぞ私たちにご相談ください。可能な場合に限り、“チームマルセイ”では物置の解体処分もお引き受けできます。

みなさん、気になつている片付け仕事があつたら、どうぞ安心してマルセイにご相談ください。「もっと早く相談すると良かった！」と言っていたことが多いのは、ホント、嘘じゃありませんよ〜♪

「相談下さい！」

今回は1月に入社した武藤が加わつて増々パワーアップしたチームマルセイの初仕事となりました！午前中3人、午後からは還暦組も加わり、男5人での大仕事となりました。鉄板からクギを外していく作業やクリンプラザに搬入する木材を基準の長さに切る作業などには予想以上に時間を要したものの、何とか一日で解体完了〜！みんなで良い汗をかきました。

パワーアップした “チームマルセイ”の 初仕事でした

町営団地から移転されたお客様から「物置解体処分」のご相談をいただきました。町のルールに従って返却するために必要な物置の解体処分には必要だった解体処分に困っていました。早速下見をさせていただいた結果、私たちでも解体が可能な物件と判断して見積りをさせていただきました。お客様からは「すぐに、「お願いします」と仕事のご依頼をいただきました。



朝から力仕事に励んで楽しんでいたこの日の昼食でしたが、実はとてもない期待外れとなつてがっかり…(【ガスでクッキング】を合わせてご覧ください…笑) それでも、午後からもみんな頑張って頑張りました！

腰痛にご用心！事業所ごみの収集運搬や家庭ごみの収集運搬にも役立つ場面が多い長身のムトちゃんですが、地面の荷物を持ち上げるときに大きく屈んでいる様子を見ていると、長身の苦労があるんですね。



“突然、ストーブが燃えなくなった”のは… 給油管の詰まりが原因でした

「うちも今年の夏こそ分解整備をお願いしようかな？」と恭平くん相談。すると、「これは20年前のストーブなので、もう部品がないので掃除だけで大事に使うしかないですね。」と言う結果でした。みなさんのお宅のストーブはいかがですか？
社長



「なかなか手強い詰まりですね」と、配管の中からはガリガリに固まった煤が！それですっかり詰まってしまったようです。冬の間中、毎日休まずに燃え続けていたのです。ストーブだつて、「ニ」にきて不具合が出たつて不思議はありません。(笑)



冬の間中 休まず 燃焼させ続けた結果…
まだまだストーブが必要ですが、つい先日、なんだか急に寒いなくつと感したら、居間のストーブが消えていました。突然の故障発生でした。翌日、恭平くんが修理にきてくれた時の写真がこちら。

2、そろそろ、冬中使い続けて来たストーブに不具合が発生していませんか？今年も桜の季節が終わった頃から分解整備のご予約を承ります！



!! 当社創業以来初めてです！ 屋根からの落雪でガス設備が破損！

今年2月は厳しい寒さが続き、水道凍結による被害に泣かされたご家庭がとても多かったようです。そんな中、当社のお客様宅で屋根からの落雪によるガス設備の破損事故が発生しました。こんなことは当社が始まって以来初めてのことでした。屋根の上から氷になった雪がガスメーターを直撃。その重さと衝撃で配管が大きなダメージを受けました。今後に向けての注意喚起につなげたいと思い、ご報告させていただきます。それにしても、「雪害」怖いですね。

👉 LPガス設備の破損、ガス漏れが発生したら、 ただちにLPガスの販売業者に連絡してください！

大事には至らなかつたとはいえ、ガス臭さを感じたお客様は大変驚かれたことと思います。あわてて消防署に連絡を入れてしまったようですが、ガス漏れが発生した時はただちに「LPガスの販売事業者」に連絡を入れて下さい。

マイコンメーターが
ガスの排出を遮断して
安全を確保します



右の写真をご覧ください。屋根から落ちた雪は、雪というよりも大きな氷の塊ですね。雪の重みは想像以上ですが、これがマイコンメーターを直撃。メーターの一部が砕け、ガス管にも亀裂が入るほどの損傷を受けました。

屋根からの落雪が
ガス設備を直撃！



浦河でも「雪害」には注意が必要です



LPガス設備の損傷、ガス漏れが発生したら、ただちにLPガスの販売業者に連絡してください。

さらに詳しい安全情報はこちらをご覧ください。
LPガスの安全情報ホームページ <http://www.hokkaidolpg.or.jp>

ガス臭い！と感じた時は

●火気は絶対使用しないで！

- 着火源となる裸火、換気扇、電気などのスイッチにも絶対手を触れないでください。
- 電気のスイッチは切る時にも火花がでます。切ることもしないでください。

- 容器バルブを閉める。
- 火の使用を中止する。
- LPガス販売店に連絡する。

ステッカーの貼付

見やすい所にステッカーを貼り、つねに連絡先が分かるようにしておきましょう。



火気厳禁



ガスの緊急連絡



「特定非営利活動法人ピスカリ」

「馬は理想のセラピスト」をキーワードに “浦河の乗馬療育”を展開中！



「特定非営利活動（NPO）法人ピスカリ」が新たなスタートを切ってから1年。浦河町の乗馬療育は、障がいの有無や年齢、性別を問わず、身体的・心理的・社会的にも良い効果が得られることを科学的な数値で実証しながら展開を続けています。この浦河の乗馬療育の発展と普及を担っているのは、全員がこのために浦河に移住してきた女性たちです。彼女たちの最近の活動の中から、ほんの一部をご紹介します。



乗馬療育に興味がある方々に限らず、また町内外も問わずに乗馬療育への理解をより深めていただければ、これからの積極的なアプローチを続けていきたいと思います。

NPO法人ピスカリ代表

江刺尚美

今までは東京で開催してきた浦河町発の乗馬療育「シンポジウム」を、今回は京都で初開催しました。「乗馬療育ってどんなことするの？」「馬に関わると心と体に良い効果があるって本当？」。乗馬療育の実践の話や東京パラリンピックを目指すパラ馬術選手の体験談など、人と馬に関わるスペシャリストたちの話を聞いていただきながら乗馬療育についての理解を深めていただきました。



高齢者の介護予防のために行っている乗馬療育の現場では、ボランティアさんの力をお借りしています。高齢者の皆さんの乗馬を楽しサポートしませんか？

シンポジウム@京都
「馬は理想のセラピスト」
2月11日（月・祝）
京都リサーチパーク（KRP）
1時～5時



理学療法士 三浦理佳さん

皆さんこんにちは。NPO法人ピスカリの三浦理佳と申します。私は札幌の病院で5年間理学療法士として働き、2年前の夏に浦河町へやって来ました。現在は、障害のあるお子さんから高齢者の方の乗馬療育のサポートの他に、資格を活かして乗馬がどうして体にいいのか、という事の研究も

今回、私は「普段から乗馬を行っている方」と「高齢者」の方では筋肉の使い方に違いがあるのか？という事を研究しました。皆さん、違いがあるように思いますか？実は、高齢者の方が筋肉を大きく使う事が多かったのです！具体

浦河の乗馬療育の研究成果について 発表してきました！

行っています。実は、先月、2月23・24日に東京都にある国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた「第14回治療的乗馬研究会」にて研究発表をしてきました。



発表中の三浦さん！

ある事もわかりました！その使われにくい筋肉を、どのように乗馬する事で使っていくかを考えていくのも、私たちのお仕事です。ゆくゆくは、乗馬が介護予防の一助になる！という研究を行い、高齢者だけでなく、馬たちの新たな可能性を広げていけたら素敵だな、と考えています。

的には腕や背中や足の力など、逆でも、逆に高齢者の方が使っている筋肉も

海外の先進的な乗馬療育を学びに行ってきます！

NPO法人ピスカリの川邊真歩です。私は岩手県の病院で作業療法士として働いた後、浦河町



作業療法士 川邊真歩さん

の乗馬療育に携わりたくて北海道にやってきました。現在は作業療法士としての経験を活かしながら、乗馬療育のサイドウオーカー（馬の横で介助や補助を行う人）や効果検証などを行っています。乗馬療育に携わってもう少して4年目になりますが、（公財）中央競馬馬主社会福祉財団による第47回民間社会福祉施設職員の海外研修生として、4月22日～6月20日の約2か月間、海外で乗馬療育の勉強をする機会をいただきました！

最初はアメリカで合同研修を迎えたのち、オーストラリア、ドイツ、アイルランドの4か国の施設で学んでくる予定です。海外では乗馬療育がリハビリテーションの方法の一つとして提供されるなど、先進的に行われています。そんな海外で専門的な知識や技術、運営の仕組み、馬や環境の管理など様々な視点で勉強してきました！と思っています。

出発までもう少し。海外旅行の経験は少なく、不安なこともありますが、今は楽しみが勝ってワクワクしています。このような貴重な機会を頂けたことに感謝しながら、研修先でたくさんのお話を吸収していきたいと思っています。浦河に帰ってきたら、またご報告させていただきます。



足を運んでみたら、大人気の理由がわかりましたよ～♪ 「マザー&キッズ」フリーマーケット2019



日時 2月20日(水) 10:00～12:00
会場 浦河町総合文化会館3階 ふれあいホール
主催 育児サークル「マザー&キッズ」



育児サークル「マザー&キッズ」開催のフリーマーケットに行ってきました。年に2回（2月・6月）開催されている大好評のフリーマーケットとあって、開始時刻前から会場にはたくさんの方がオープンを待っていました。子ども服や育児用品・おもちゃ、雑貨や手作りの品などが格安価格で販売されるとあって、若いお母さん方に混じってお孫さん用のプレゼントを買い求めるおばあちゃんたちの姿もありましたよ。なんだか、ほのぼのとしたあったかい「フリマ」でした～♪



それにしても、出店料一人百円というこのフリマ。託児も用意されていて、めちゃくちゃ格安な販売価格と子供服のあまりのかわいらしさに、気が付くと孫に着せたくてね～と笑顔のおばあちゃんたちに混じって、何枚も買ってしまっていた私でした。へへ

会場で、「マザー&キッズ」のお揃いの名前入りTシャツを着たお母さん方がいたので声を掛けてみたら、なんとびっくりに！この方々は、現在活動中のメンバーではなく応援に来ていたOGの方々でした。毎回楽しくお手伝いに来て、子育て中のメンバーの活動を支えているそうです。なんだかかすってもいいなあ～と思います。代替わりをしながらもサークルが長く続いている背景には、こんなにあったかい応援があるからなのでしょう。

スネキな応援を得ながら

浦河町には未就学児を対象にした3つの子育てサークルがあり、色々な活動をしています。地元在住者はもちろん、転勤族のお母さん方にとっても大切な居場所になっているようです。ひとり子育てを抱え込まずに子育て仲間と情報交換ができますね。



地域の子どもたちを見守っているお店で 夢を大切にしているほっこりさんに会えます



最初の絵本「つばめのつんちゃん」



次の絵本を制作中！楽しみです

その中でも特にほっこりさせられてしまうのが、店内で『ジョップ&カフェCO・CO・A(ココア)』を営んでいる青木敏衛さんの存在です。青木さんはこの10年ずくっ地域の子どもたちの成長を見

幌別地域の サードプレイス CO・CO・Aさん

この地域で育つ子どもたちの大切な居場所として地域の大人の尽力によって続けられているお店です。店内に掲示されている子どもたちの書道作品や絵画、販売ボックスに並ぶ手づくり作品を眺めるだけでも心がほっこりするお店ですよ。どうぞ足を運んでみてください。

その青木さんが、昨年3冊目の絵本を出版されました。手作り絵本を初めて出版したのが13年前のこと。先の見えない暮らしの中で、助けたつばめから元気をもたらした実話でした。自分への希望も込めて書いたその本以降、お金のかかる出版はもう無理と諦めていたそうです。でも、「神様が会い出版のチャンスを与えてくれた」と思った。私も絵本作家になれるかもしれない！私は頑張るぞ～って、いま夢を実現させているのと話してくれましたよ。いいなあ。青木さんにはこれからも地域の子どもたちのそばにいて欲しいです。あ！わたしたち大人のためにもです♪

マックス



「わたしの写真はいいの！それよりこっち。ちょっと作ってみたんだけど、面白いでしょ？」と青木さん。浦河から自転車を走らせて、駄菓子を買に行く子どもたちもいるそうですよ。きつと、駄菓子もおばあちゃんも好きなんだろうな～

「CO・CO・A」(ココア)
浦河町宇西幌別253-1
☎0146-28-2088

『この国の息苦しさの正体 感情支配社会を生き抜く』

和田 秀樹 著 (1960~) 朝日新聞出版 朝日新書



最近読んだ本の中より…



インターネット上には、いくつもの起爆剤があって、そこに少しでも引がかかると感情が爆発し、炎上します。誰かの「気に入らない」という感情に引がかからないよう、ひたすら無難に生きなければならない。実際にはそんなはずはないのですが、多くの人がそのような「無言のプレッシャーを感じる」社会になってしまったことに、うなずく人は多いのではないのでしょうか。(本文より)

まるで極悪犯罪者を糾弾するかのようにな…

ちようどこれを書いているときに、一人の芸能人が薬物使用で逮捕されるという出来事が起きました。まるでこれより重要なニュースは無いかのように、連日テレビではトップニュース扱いです。彼の出演しているテレビ・映画はすべて放映中止、バンドのCDも販売中止です。たしかに彼のやったことは違法です。しかし「数日の、まるで彼の仕事の記録を抹殺するかのよう」な世の中の流れにはちよつとした怖さを感じます。本書の著者と同じ気持ちになりました。この国は息苦しい…。

著者の和田さんはベッキーさんの不倫事件や学歴詐称を非難されたジョーンKさんのことについて次にように記しています。

「たしかに彼らのしたことは倫理的に正しいとは言えません。しかし、その報道のされ方はまるで極悪犯罪者を糾弾するようでした。(中略)彼らがあそこまで叩かれたのは何故でしょう」

か。そこには、とにかく成功して目立つ人たちを叩いて引きずり下ろしたいという感情があるように思えます。」

この「引きずり下ろしたい」というのがキーワードだと思いました。和田さんは、人をうらやむ感情そのものは否定していません。昔からある感情です。昭和の時代のヒロインやヒーローたちも、自分たちの境遇に比べて恵まれた者をうらやむ気持ちは持っていました。著者が例に挙げている「おしん」や「どてらい男」のような人たちがたくさんいました。貧乏で自分でも中流には及ばないと分かっている主人公たちです。ただ、彼や彼女たちが持っていたものがあつたと和田さんは言います。

「希望」を見出せた時代には悔しさが人を成長させた

それは「希望」です。「希望が見いだせた時代には、悔しさが人を成長させた」と記していて、希望を見いだすのが容易でない今は、成功者を自分の場所まで

引きずり下ろすことで安堵を得たいのだと言います。和田さんは精神科医なので、随所にこういう分析があります。

わたしの若いころも薬物で逮捕された芸能人がたくさんいました。でもしばらくすると映画やテレビに復帰してきました。正直にいうと、あの頃のわたしは、これがすごくイヤでした。世の中はいい加減だなあと、いつも思っていました。

本書は雑になれなくて人生に疲れる人へのエール



でも年を取ってみれば、若い時は他人に対して単に狭量だったんだと分かります。ピエール瀧さんも、ちゃんと出直せば良いんだと思います。完璧に生きる人などいません。本著で和田さんも書いています。少し雑に生きたら気持ちも楽です、と。

社長

寺澤さんの訃報に届いたメッセージの中から…



「春を待ちわびて居ります。いつもマルセイニユースを送って頂いてありがとございます。2月号の蓮米の写真ひつくりです。初めてです。ふるさとのニユースは嬉しいですね。ひと文字ももらさず、すべて味わっています。寺澤さん」すてきな方ですね。私の実家も片付けて頂きましたね。トラックの上から、この布団もつたいないなあーと声を掛けて下さり、とてもいい笑顔の印象が残っています。社長さんや皆さんの心の中に『至宝』を残していかれたのです。生きている人達はしっかりと食べて元気でいなければいけませんね！(後略) 札幌市Y・Kさん

「マルセイニユースありがとう。寺澤さんが残してくれた事(言葉) こんなに大きかったんだね。かっこいい人だったね。初対面の時から寺澤さんと呼びたくなる人でした。たくさんの思い出はないのに、杉の木のようにスーツと真つすぐシンブルな、当たり前な考え方だから、自分の頭の中がぐちゃぐちゃで整理できないような時の寺澤さんの一言が効きますね。68歳とは惜しいです。ご冥福をお祈りいたします。」 札幌市S・Kさん

「今朝、JRR通勤の時にマルセイニユースを読んで、ポロポロ涙が止まらず、困ってしまいました。こつこつとみんなの胸に残る人っていますよね。深い笑顔で声をかけてもらった日を想っていました。さみしいわ、ホントに。ありがとだね」 札幌市T・Sさん

「今、マルセイニユース(2月号)読んで泣きました。」 町内在住の男性

「寺澤さんが亡くなられたんですね。やさしい人でしたね。色々とお世話になりました。さみしいですね…」 町内在住の女性



時間も押し、盛りつけに気を配る余裕もなかったことがよくわかります。反省！！



ガスグリルでおいしくクッキング

ごはんがススム？里芋の蒲焼き丼

ひえ～なんと！みんなから笑顔が消えて無言のランチタイムになっちゃった！優しい恭平くんからも一言もないなんて…今までこんなことは一度も無かった！みんなごめんなさい。力仕事だったこの日はやっぱり肉料理にするべきでした～！いやはやまいっただけど…「あべかわ餅風」に考えると、美味しかったで～す♪



●材料（2人前）

- ・里芋 … 4個(200g)
(*長いもでもOKでした！)
- ・薄力粉 … 大さじ1
- ・水 … 大さじ1
- ・焼き海苔(全形) … 1枚



- ・油 … 適量
- ・ごはん…2膳分
- ・粉山椒…お好みで

【A】

} 各大さじ1と1/2	しょうゆ
	みりん
	酒



いそいそと食事の準備を手伝っているお眼を空かせて戻ってきたみんなでしたが・・・

●作り方 参照 オーガニック料理のレシピ

- 1、里芋は皮つきのままよく洗って泥を落とし、やわらかくなるまで蒸してから皮をむいてフォークでつぶし、薄力粉と水も加えてよく混ぜる。(蒸さずに皮をむいて煮てみました。蒸すよりも水分が多くしあがるのかな？と思いましたが)
- 2、【A】を合わせておき、海苔は6等分に切って、それぞれに1の芋を薄くぬり、油をひいたフライパンで両面こんがり焼く。
- 4、焼きあがったらAをからめて、温かいご飯の上のせ、好みに粉山椒をふる。



手間取って準備が遅れていた様子を見かねて、「これ、つぶすんですか？」と手伝ってくれたマルセイの料理男子です！

この時は、まだ笑顔があった・・・



えーっと、えーっと…。何からお伝えすればいいのでしょうか。包み隠さずに結論から言いますと、「星ひとつだってつけられない！」と言われてしまいました。初めてです。この食卓から笑顔が消えて会話もなく、不思議な沈黙の時間が生まれたのでした。いや～、びっくりでした。「恭平くん、どう？」というマックスの問いかけにも、あの恭平くんが「……」。沈黙でした。いつだってモリモリ食べて、ど

しかし、次第に笑顔が消えて・・・



んな時でも高得点の評価をする恭平くんが一言も話さなかったんです。しかも、社長とムトちゃんは残りました！残した人が出たのも初めての事です！いや、マイツワ・・・

あのですね。とんでもないランチタイムとなりましたが、決して美味しくなかったわけではありません。ただ、「イモでできたあべかわ餅が載った丼」ではなく、みんなはガッツリとお肉の丼が食べたかったんです。よね？^^

ついにみんな黙ってしまった・・・



この後、がっかりばわふるさんは冷蔵庫から昆布の佃煮を取りだして、みんなにも勧めてました！

今日はわたし、一緒に料理してないから！時間内にちゃんその後片付けも出来ないで、しかも、時間に間に合わなくて、その上…こんなのダメです。うん。ダメダメ！

ええ、このお海苔はおいしいけど、うん。美味しいけど、ご飯にのってなくてもいいかな？お

あれ？みんな黙ってしまって、どうしたの？だって、うなぎの蒲焼きみたいになる予定だったんだよ



社長のちよつと長いコラム

『寺澤さんの思い出2』

先月号で、弊社で働いてくれていた寺澤さんが亡くなられたことを書きました。そしてたくさんのメッセージをいただきました。ありがとうございます。わたしには何でも相談できる人でした。たくさんの会話を交わし、いろいろなことに気づかせてくれました。今月も、そのなかのひとつを書いてみようと思います。

寺澤さんは、よくこう言っていました。「家族四人がひとり一枚ずつステーキを食べるよりも、ホットケの開き一枚を四人でついつい食べる方がうまいんだ。」

道徳訓として言っていたわけでは決してありません。寺澤さんはむしろそういう道徳訓が嫌いな人でした。信じていなかったというほうが正確かもしれません。「人間はそういう立派な教えを信じたフリがけっこう出来る。それでほめられると、もつと信じたフリが出来る。フリがうまくなるんだ。」「けどな、フリはフリだから本心じゃねえのよ。フリを続けるつても大変だぞ(笑)。いや、続けてもいいけどよ、疲れるぞ(笑)。」

フリというのも言ってみれば嘘のひとつです。いつかは本当の姿とつじつまが合わなくなり、心が窮屈になって自由じゃなくなってしまう。心を窮屈にしない生き方を選んでいくのが寺澤さんがなにより大事にしていたこと



とで、立派な人間のフリなんかしねえことだと、いつも話していたものでした。

話がそれましたが、どうしてホットケ一枚の方がうまいもんだと思うのか、わたしも寺澤さんに訊いたものです。こんなふうにしてくれました。

「立派なステーキがひとりずつ食べる晩飯が、楽しいとは限らねえつてことよ。せつかくメシができて子どもは部屋から出てこねえ。テーブルについても話さねえで携帯いじつてる。メシ作ってもらえることがありがてえつて思わないことあるだろ？子どもだけじゃないぞ。親父が不機嫌なこともある。何が面白くないんだか知らねえけど、家族みんな俺の不機嫌に気づけて顔していることないか？誰のおかげでステーキ食えると思ってるんだって内心思っているかも知れんぞ(笑)。そういうこと、ないか？」

「そんな晩飯が楽しいかってことよ。肉だつてうまくないべ。そうじゃなくて、ホットケ一枚でもみんな楽しく食べられたらうまいだろうつてことさ。」

寺さんが繰り返し話してくれた「ホットケとステーキのたとえ話」

わたしはこのホットケとステーキのたとえ話を、何度も聞きました。寺澤さんは繰り返し笑いながらこの話をしました。そして思ったものです。これも寺澤さんの実体験だろうなあ、と。きつと、昔は機嫌悪そうにメシ食ったんだらうなあ。(笑)。不機嫌になることで注目させて、まわりをコントロールしようとしたんだらうなあ、と。私も痛いほどよく分かります(笑)。

いま思い出したけど、一度だけ寺澤さんの家で晩ご飯をいっしょに食べました。ご飯と味噌汁とアジが一尾だけだったけど、炊きたてのご飯がうまかったし、二人で楽しい晩メシだったなあ。



さのばわふる日記



「ね〜ね〜、私の電卓知らないかな〜？」
事務所には、社長とムトちゃんど恭平さんと圭佑くん。ムトちゃんが「これですか？」と自分の前にある電卓を私に見せる。「違う違う、いつも私が使っている大きい」。他の人たちは自分知りませんよモードでなんとなくハラハラしている感じで、回りを見回していたりする中、社長だけはパソコンをじつと見つめ素知らぬ顔。心の中では「自分が疑われているぞ」と思っていたはず・・・

すると圭佑くんが日報を取りに私の背後に来て、日報を手を持ったあと私の机を指さして「左の写真参照」
「あ〜これは違うんですか？」と恐々と私に言う。
「げ〜！そうだよ。なんでこの目の前にある物が見えないの！信じられない！と自分に呆れてしまった私。この前に座って仕事をしていたにもかかわらず見えずにワーワー言いながら引出しを開けたり、あつちこつち捜したりしていたのですから・・・



しかも電卓が隠れていたわけでもなく写真のように丸見え状態だったのに〜(泣) これにはさすがの私もショックでした。

圭佑くん曰く「机の上に電卓があるけど、違う電卓を捜しているのかな〜と思っていたんですよね。」

「でも、これの事だよな〜と思って・・・」と言う圭佑くん「あつ！私が圭佑くんの方を振り向いているうちに誰か置いたんですよ。」と人のせいにする私。こうしてマルセイでは冤罪が起きます。目の前の物が見えないとか、どこに置いたか分からないとか、何を話そうとしたかを忘れるとか、こういう現象が増えていく私。これは全て加齢のせいらしい。もう若いふりは出来ない。だから今年からは何歳？と聞かれたら

「60歳です。」と答えることにしました。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~9月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:15~5:15 土曜3:00



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3,500部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123